

以上、1965年気象学長期計画の内容、その後の経過、問題点などをいろいろの面から整理してきた。はじめにも述べたように、これらは長期計画の具体的な提案ではなく、あくまで、今後長期計画をたてていく上での資料として整理したものである。

第21期長期計画委員会としては、これらの資料が今後長期計画をたてていく上で少しでも参考になり、また、その討論のきっかけにでもなれば幸いであると考えている次第である。

第22期第10回常任理事会議事録

日時 昭和58年8月18日(木) 09.50~12.30

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 松本, 荒井, 松野, 竹内, 増田, 村山, 田宮

議事

(1) 日本学術会議第13期会員選挙立候補者の推薦について

資料に基づき、全国理事への照会の結果について説明され、審議の結果、「日本気象学会理事会の推薦」ということで、推薦方申し込みのあった猿橋勝子会員及び増田善信会員の2名について、8月31日締切で全国理事の投票を求めることになった。

(2) 昭和58年度日本気象学会奨励金受領候補者の選考について

資料に基づき、選考経過、理由などの説明があって審議された結果、選考委員会の選考のとおり、3件について、全国理事の賛否を投票で求めることとなった。

(3) 本年度の実行予算等について

担当理事から、7月18日に本年度の実行予算及び将来の財政の改善について検討されたその概要、問題点などが説明された。審議の結果、本年度の実行予算については、購読誌の料金を早目に徴収する、「気象集誌」の投稿料を値上げすることで対応することが了承された。財政の改善の問題は、会費の値上げ案を含めた具体案を早急に作成し、提案することとされた。

(4) 日中交流及び国際学術研究交流について

日中交流について、今年は1名の会員だけということまで話が進んでいる旨説明された。これに関連し、過去に国際学術交流委員会が設けられていたこと、国際交流に関して責任をもって担当することの必要などが検討され、この結果、国際交流の担当理事として、山元理事にお願いすることとなり、松本常任理事がサポートすることとなった。

(5) その他

ア. 熱帯気象に関する科学者会議の概要を「ブレトン」に投稿することについて、投稿料の支払などが了承された。

イ. 「気象学長期計画」の配布について、無料配布及び有料頒布が了承された。

ウ. 日本学術会議海洋学研究連絡委員会から、機関誌への掲載依頼のあった「新海洋制度のもとにおける海洋科学調査の問題についての見解」について、長文であることなどのことから、依頼には応じないこととなった。

エ. 「気象集誌」編集委員の追加委嘱について、名古屋大学水圏科学研究所 田中 浩氏に委嘱することが承認された。

オ. 「天気」編集委員の交替について、10月1日から、気象庁予報部予報課 平沢正信氏に代わって、同課 高瀬邦夫氏に委嘱することが承認された。

承認事項 櫻井修次ほか22名の新規加入が承認された。

日本学術会議第13期会員選挙の立候補者の推薦について

標記について、募集をしていたところ、猿橋勝子会員(地球化学研究協会専務理事)及び増田善信会員(気象研究所第1研究室長)が申し込まれた。この2名について、全国理事の投票(8月31日締切)を行った結果、それぞれ過半数が得られたので、日本気象学会理事会の推薦を承認した。